



2012年10月29日 セネラルスタッフ東京本部にて撮影

心に残る言葉

Vol.2 「もう一回やれと言われても二度と出来ない。また二度とやりたくない」

MKグループ
オーナー
青木定雄氏

多少私的になるかもしれませんが、組織のリーダーとして尊敬する人を二人あげるとすると、一人が前回書かせて頂いた日本最大の医療グループ医療法人徳洲会の徳田虎雄理事長であり、そして、もう一人はMKタクシーの創業者である青木定雄オーナーです。

MKタクシーは日本のタクシー業界を大きく変えたタクシー会社で、サービスとは程遠い存在であったタクシー業界にあって徹底した顧客本位のサービスを追求し、タクシー業界、運輸省とも真正面から戦いながら、素晴らしいサービスの実践を通してタクシー業界の地位向上を行ってこられた会社です。

私がMKタクシーの存在を知ったのは、今から30年程前に書店でMKの本を買って読んだのが最初です。

当時、私が30代前半で、青木オーナーが50代半ばの頃で、京都に顧客サービスを徹底して実践しておられるMKタクシーという会社があるという事を知り、MKタクシーを实际乗ってみる為に、京都まで出掛けた事がありました。

そして、本に書いてあるとおりのドライバーの対応に感銘して帰り、いつか青木オーナーと会ってみたいと思っていました。

それから10年近く経ち、私がスタッフの問題で悩んでいた事が有り、MKタクシーに電話し青木オーナーに直接お会いしたいとお願いしましたところ、快く会って頂いたのがお付き合いの始まりでした。

以来、奥様はじめ副会長御夫妻とも家族的にお付き合い頂いており、私共の20周年、25周年の式典にもオーナー御夫妻でご出席頂き、基調講演を頂い

た事は組織にとっても無形の財産となっております。オーナーからは、折にふれ直接会話の中でいろんな事を学んできましたが、一つ言葉として心に深く残っているのは、

私が、「いつが一番大変でしたか」と質問した時、「ずっと大変だったから、いつが大変だったか解らない。もう一回やれと言われても二度と出来ない。また二度とやりたくない」という言葉でした。

社内においてはドライバーや社員の意識改革で日々苦勞され、社外ではタクシー業界からの嫌がらせや圧力、そして所轄官庁の運輸省の規制と戦ってこられた青木オーナーの、壮絶とも言える生きざまの中でしか出てこないまさに至宝の言葉だと、私は今でも心に深く刻んでおります。

こうした命を賭けて国や業界と戦っている経営者は、今日の日本にはほほぼいのではないのでしょうか。経営的才覚の有る人は、いつの時代にもいるとは思いますが、それはカミソリ的な切れでしかなく、人の人生観や経営観に深く影響を与え、心の琴線にふれる程の、いわば「鉈(なた)」の様なすご味の有る経営者やリーダーではないと思っております。

現在、青木オーナーは、体調をくずされ以前の様に超人的な動きをされる事は出来なくなり、年に1~2度御挨拶に伺う時にしか話が出来ていませんが、20年以上公私にわたりお世話になっており、徳真会グループの「育ての親」のお一人だといつも深く感謝しております。

徳真会グループ
理事長 松村 博史

Words to Remember

MKグループオーナー
青木定雄氏



Profile

1928年生まれ。1960年にMKタクシー創業。お客様第一主義のもと、親切経営で市民の評価を得る。国を相手にしたタクシーの値下げ裁判が後のタクシー法改正による自由化につながり、「規制緩和」は1993年の流行語大賞金賞に選ばれた。あいさつ運動・身障者優先乗車など業界の常識を破るサービスも展開。2001年から近畿産業信用組合会長に就任し、3つの信用組合の事業譲受に成功。「商売人の心」で組合経営に全力を尽くす。常にお客様に目線を向けた金融のあり方を描き、中小・零細企業に軸足を置く。2012年2月には総預金1兆円を達成し、真の銀行作りを目指している。